

研究の概要 (オプトアウト公開用)

西暦 2021 年 2 月 8 日

臨床研究を実施する際には、文書もしくは口頭で説明のうえ同意を取得して実施をします。臨床研究のうち、研究対象者等（患者さん等）への侵襲や介入もなく診療情報等の情報のみを用いた研究や、余った検体のみを用いるような研究については、国が定めた指針に基づき、研究対象者等のお一人ずつから、必ずしも直接同意を得る必要はありませんが、研究の目的を含めて、研究の実施についての情報を公開し、さらに拒否の機会を保障することが必要とされております。このような手法を「オプトアウト」と言います。

本研究への協力を希望されない場合あるいはお問い合わせは、下記の担当者までご連絡ください。

審査課題名	微生物溶液評価法による精液の質評価法の研究開発
実施責任者	英ウィメンズクリニック 江夏 徳寿
研究代表者	広島大学大学院統合生命科学研究科 島田 昌之
研究対象者	2021 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日のあいだに、英ウィメンズクリニックにおいて体外受精を行うご夫婦。
研究期間	倫理委員会承認日 ～ 2023 年 3 月 31 日まで
研究目的・方法	<p>研究の意義・目的</p> <p>精液所見は不妊治療の治療方針を決めるにあたり非常に重要な指標である。従来、精子濃度や運動率によって評価する手法が主に取られてきたが、近年では機械測定により運動の質についても評価することができるようになった。この様に、精液検査についてはその精度について着実に進歩しているが、中には精液所見と臨床上的の結果が乖離することもしばしば経験される。実際に補助生殖医療においては、原因不明不妊がその多くを占めており、その一因として精液所見で我々が見落としている因子がある可能性も否定できない。</p> <p>近年、精液中に精子の運動率を高める成分や、子宮において精子を保護するといった妊孕能に関連する成分が徐々に明らかになっている。微生物溶液評価法は、培養液成分により大腸菌の動態が変化することで、複数の成分が細胞の運動性に及ぼす効果を総合的に評価できる系であると期待されている。本研究は精漿に対する微生物溶液評価法により、精液の質と妊孕性を評価する手法を開発することを目的とする。</p> <p>方法</p> <p>体外受精時に使用した余剰精液について、大腸菌を用いた精漿の評価を行う。これを受精卵や胚発生のデータと組み合わせることによって、临床上重要な精漿の</p>

	特徴を解析する。検体、および個人情報は英ウィメンズクリニックにて匿名加工を行い、クリニック外部に個人情報が漏洩しないよう厳重に留意する。
研究に用いられる試料・情報	体外受精時の余剰精液
個人情報の取り扱い	利用する情報から氏名や住所等の患者様を特定できる個人情報は削除いたします。また研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際にも患者様を特定できる情報は含まれません。その他当院の個人情報保護方針に則り取り扱いいたします。
お問い合わせ先	英ウィメンズクリニック 倫理委員会事務局担当 山本健児 電話 : 078-392-8716